

## 利尻島におけるクロツラヘラサギの観察記録

永田 幹<sup>1)</sup>・松本英宣<sup>2)</sup>・大吉五夫<sup>3)</sup>・大吉信子<sup>3)</sup>・坂井伍一<sup>4)</sup>・坂井俊子<sup>4)</sup>

<sup>1)</sup> 〒 085-0806 釧路市武佐 2 丁目 27-15

<sup>2)</sup> 〒 097-0101 北海道利尻郡利尻富士町鷺泊字栄町 利尻森林事務所

<sup>3)</sup> 〒 071-0773 北海道空知郡中富良野町東 3 線北 13 号 旭川野鳥の会会員

<sup>4)</sup> 〒 006-0816 札幌市手稲区前田 6 条 9 丁目 6-8 日本野鳥の会旭川支部会員

### Observational Records of Black-faced Spoonbill, *Platalea minor*, from Rishiri Island, Northern Hokkaido

Kan NAGATA<sup>1)</sup>, Hidenori MATSUMOTO<sup>2)</sup>, Itsuo OHYOSHI<sup>3)</sup>, Nobuko OHYOSHI<sup>3)</sup>, Goichi SAKAI<sup>4)</sup> and Toshiko SAKAI<sup>4)</sup>

<sup>1)</sup>27-15, 2 cho-me, Musa, Kushiro, Hokkaido, 085-0806 Japan

<sup>2)</sup> Rishiri Forest Ranger Station, Sakaemachi, Oshidomari, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0101 Japan

<sup>3)</sup>A member of Asahikawa Wild Bird Society, Kita 13 gou, Higashi 3 sen, Nakafurano, Hokkaido, 071-0773 Japan

<sup>4)</sup>A member of Asahikawa branch of Wild Bird Society of Japan, 6-8, Maeda 6-9, Teine, Sapporo, Hokkaido, 006-0816 Japan

**Keywords:** new record, *Platalea minor*, Rishiri Island

クロツラヘラサギ *Platalea minor* はトキ科ヘラサギ属に含まれ、国内では稀な旅鳥として知られている (日本鳥類目録編集委員会, 2000)。その独特なしゃもじ形の嘴とともに、世界的に絶滅が危惧されており、日本野鳥の会 (2011) によると 2011 年には全世界で約 1800 羽の生息が確認されているに過ぎない。国内では北海道から沖縄まで各地から記録があるが、特に九州地方に多く、少数が越冬することもある (Brazil, 2009)。環境省では本種を絶滅危惧 IA 類 (CR) に指定しており (環境省, 2006)、2011 年に国内で行われた調査では 270 羽が数えられている (日本野鳥の会, 2011)。北海道における過去の観察記録としては上ノ国町、石狩市、根室町、紋別市、稚内市などがあるが (藤巻, 2000)、これまで利尻島からの記録はなかった (小杉, 2000, 2010)。

2011 年 5 月、筆者らは利尻島南部の利尻富士町鬼脇にて本種 1 羽の飛来を確認したので、以下に報

告する。なお、本種の利尻島内における観察については永田あかね氏 (釧路市) に貴重な情報をご提供いただいたほか、本稿のとりまとめについては、柳田和美氏 (日本野鳥の会旭川支部)、小杉和樹氏 (利尻島自然情報センター)、佐藤雅彦氏 (利尻町立博物館) にお世話になった。ここに厚くお礼を申し上げる。

利尻島において本種が観察されたのは 2011 年 5 月 22 日から 23 日の 2 日間であり、以下の複数の目撃記録が存在する。いずれの個体も、大きさはコサギくらいで全身は白く、後頭部に白い冠羽があり、足は黒く、赤色の虹彩を持ち、目先は黒く、そこには小さな一對の黄色の斑が確認された。長い嘴は基部から先端まで一様に黒く、その先端がへら状になっており、淡く青白い横斑模様がみられた。これらの特徴から本個体はクロツラヘラサギの成鳥冬羽と思われた。どの観察場所においても観察個体数は 1 羽であり、目先の小さな黄斑の存在、観察場所

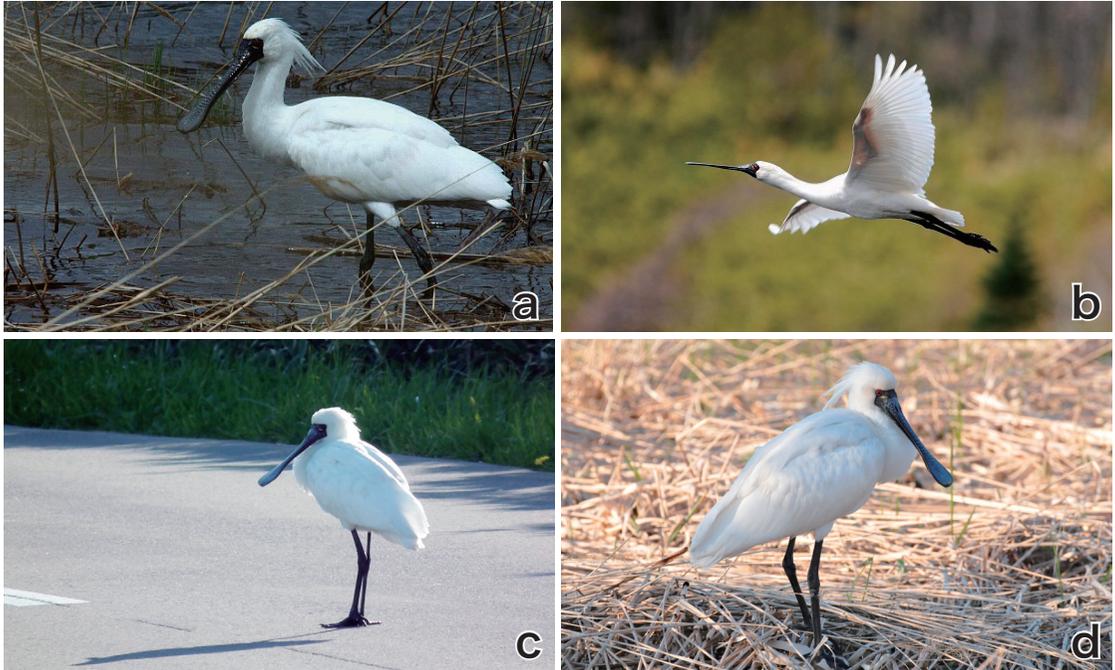


Figure 1. *Platalea minor* observed at Rishiri Island in May 22-23, 2011. a: at Numaura (photo by I. Ohyoshi), b: at Numaura (photo by G. Sakai), c: at Notchu (photo by H. Matsumoto), d: at Notchu (photo by K. Nagata).

がほぼ同じ地域内に限定されているため、おそらくこれらの記録は全て同一個体によるものと考えられた。

#### 観察記録1 (Fig. 1a, 1b)

月 日：5月22日

時 刻：13:40-14:00 (頃沼浦), 15:00-15:30 (頃南浜)

場 所：利尻富士町鬼脇字沼浦および南浜・南浜湿原

観察者：大吉五夫・大吉信子・坂井伍一・坂井俊子

最初に本種を確認したのは、著者らのうちの大吉および坂井の4人のメンバーであった(旭川野鳥の会, 2011)。12:45頃からオタドリ沼の散策路を時計回りに歩き始めるが、この時はクロツラヘラサギを見ることはなかった。13:40頃に沼を一周して売店近くに帰ると、売店から沼に延びる木製の栈橋のそばで採餌している本種1個体を初認し、散策路から観察を行った。本個体は水辺で採餌をするほか、羽繕いを行ったり、休息をするなど、あわてて逃げる様子は見られず、14:00頃には南西方面に飛

び去った。その後、同メンバーは15:00頃に南浜湿原を訪れ、メヌショロ沼の木道の傍で休むクロツラヘラサギ1羽を再度確認することができた。4名がメヌショロ沼を反時計回りに一周した後も同個体はその場所にいたが、メンバーの姿を見たためか、15:30頃には北東方面へと飛び去った。翌23日に再びオタドリ沼を訪れたが、本個体を確認することはなかった。

#### 観察記録2 (Fig. 1c)

月 日：5月23日

時 刻：16:55-17:00 頃

場 所：利尻富士町鬼脇字野中市街から鬼脇側に  
500 mほど離れた車道上

観察者：松本英宣

仙法志から南浜に車を走らせていた筆者の一人松本は、車道上を歩いている本個体に気づいた。見慣れぬ鳥であったため、確認の写真を離れた場所から撮影していたところ、対向車が近づき、搭乗者が車を降りて観察を始めた。その後、この鳥は海の方

に飛び去ったため、観察を終了した。

### 観察記録3 (Fig. 1d)

月 日：5月23日

時 刻：17:44-17:55

場 所：利尻富士町鬼脇字野中

観察者：永田 幹

筆者の一人永田は永田あかね氏から情報を聞き、確認のため野中に向かったところ、本個体が道道すぐ脇の枯草の中に立っているところを発見した。観察中はあまり逃げようとせず、筆者が近づいても数メートルの距離を保つ程度に離れる程度であった。しかし、座り込む、羽毛をふくらます、首がふらつく、飛べない、などの症状は見られなかったため、保護は行わず、10分ほどの観察後、そっと現場を離れた。

なお、翌5月24日に、永田が最後に目撃した周辺地域を佐藤雅彦氏（利尻町立博物館）が7:30から8:50まで探索したが、本個体を再び見つけることはなかったという。

### 参考文献

- 旭川野鳥の会, 2011. 旭川野鳥の会へようこそ.  
<http://asahikawabird.blog102.fc2.com/blog-date-201105.html>, 2011年11月15日引用.
- Brazil, M., 2009. Birds of East Asia. Princeton University Press. 528 pp.
- 藤巻裕蔵, 2000. 北海道鳥類目録改訂2版. 帯広畜産大学野生動物管理学研究室. 83 pp.
- 環境省, 2006. (別添資料1) 鳥類のレッドリスト. [http://www.env.go.jp/press/file\\_view.php?serial=8929&hou\\_id=7849](http://www.env.go.jp/press/file_view.php?serial=8929&hou_id=7849), 2011年11月18日引用.
- 小杉和樹, 2000. 利尻島における月別鳥類出現リスト. 寺沢孝毅(編), 北海道 島の野鳥. 150-155 pp. 北海道新聞社. 札幌.
- 小杉和樹, 2010. 利尻島の野鳥リスト. 利尻島自然情報センター. 自刊.
- 日本鳥類目録編集委員会, 2000. 日本鳥類目録. 改訂第6版. 日本鳥学会, 京都. 345 pp.
- 日本野鳥の会, 2011. クロツラヘラサギは減少か. 野鳥, (755): 17.